



きょうしつにっき だい かい
にほんご教室日記 第106回

きょうしつ
教室スタッフのボランティアさんが普段、考えていることや受講生の様子などをお知らせしています。

● 交流の価値

いぜん、この欄にも書いたカリフォルニア州在住の知人の奥様が、感染者拡大にともないスタッフ不足に悩む医療機関の看護師として働きだして3か月が経過しました。アメリカでは依然として感染拡大が続いています。「コロナに負けるな」と私も彼女にエールを送りました。中学生のお子さんもいる家庭で、万一のことがあったらと心配していましたが、今までのところ何の問題もなく仕事に励んでいます。一方日本では、感染者数も少なく、コロナ対策が功を奏したと思われましたが、6月末ごろから再び感染者増加の傾向が出始めました。

コロナ感染が始まってから気になることがあります。それはコロナ感染拡大に伴い、人と人とのかかわりが減る中で、いろいろな形での差別が拡大しているのではないかとと思われることです。「あの病院に患者がいるようだ」「空気感染する」というようなうわさ話に乗る、あるサイトでは「小学生が感染したようだ、どこの学校か」と、せんさくが次々と広がる、また防止のための最前線に立っている医療従事者の家族に対する差別、なども早い時期から発生しています。

私たちは、日本語を教えるという活動を通し、たくさんの外国籍の人と交流しています。彼らは日本語が不自由なため生活のいろいろな場面で苦勞しています。「学校からの通知がわからない」、「町内会にかかわれない」「挨拶をしてもだままっている」など、地域からも問題にされていないと感じることが多いようです。その苦勞は日ごろ交流していない人には伝わってきません。

私がコロナに関する差別に強い違和感を覚えるのは、コロナ感染者への対応についても、外国人への対応についても、どちらも普段は心の奥にひそんでいる少数者に対する差別（排除）意識の表れではないかと感じるからです。日ごろ行われるこのような差別は、無知、無関心、無頓着、が原因で、本人は差別などとは思わない場合が多いと思います。普段、少数者である外国籍の人と力を合わせいろいろな活動をしている人は、当然のことながら差別意識は持ちません。人間は同国人であろうが外国人であろうが、交流によって、お互いの人間関係が発展し、無関心や無知が消える過程で相互理解が進み、差別もやがてなくなります。国際交流協会の活動によって築かれた豊かな人間関係こそが、私たちの生活の質を高めることにつながるのではないかと感じています。

かいひのうにゆう ねが
☆会費納入のお願い

かいひみのう なた じむきよく じさん
会費未納の方は、事務局に持参、または同封の振り込み用紙で振り込んでください。

こじんかいりん えん かぞくかいりん えん
◎個人会員2,000円 ◎家族会員3,000円

かいりん さいい か えん
◎ジュニア会員（18才以下）500円

だんたいかいりん えん
◎団体会員10,000円

さんじょかいりん えん ひとくち
◎賛助会員10,000円（一口）

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

●理事会
18:30~
市役所 7F
大会議室

AGA Letter 第124号 2020年8月1日発行

発行責任者：関本 正弘

編集：AGA事務局

発行：上尾市国際交流協会

〒362-8501 上尾市本町 3-1-1 上尾市役所別館 1 F

TEL: 780-2468 (直通) / Fax: 775-0007

E-Mail: office@aga-world.com

じむきょく しやくしよだい
※AGA事務局は、市役所第3
べつかん かい しやくしよほんちようしやむ
別館1階（市役所本庁舎向かい
がわ
側のビル）

しゅっさん げつ もく きん
スタッフの出勤は、月・木・金の
10:00~16:00です。